

あまうち

舞鶴市立余内小学校
平成30年11月30日発行
(本年度9号)



校区教育目標 自らの未来を切り拓く「生きる力」を身に付けた 次代を担う児童生徒の育成

体育館前駐車場の歩道のわきの楓が鮮やかに紅葉しています。また、校内の桜や銀杏の木もすっかりと葉を落としてしまいました。北国の天気予報に雪マークが顔を出すようになり冬が近づいているのを感じます。長い2学期もあと3週間、まとめの時期となりました。

本校では11月15日～12月6日を入権旬間と位置づけ、学年に応じた入権学習や児童会活動を通して、入権尊重について理解を深める取組をしています。入権旬間が始まるにあたって、子どもたちに次のような話をしました。

「入権」というととても難しいですが、人間にとってとても大切なものです。健康で暮らすこと、賢くなること、仲良くすることなど、人間らしく幸せに暮らしていくために、誰もが生まれながらに同じように持っているものです。

入権を守るためには、自分も人も大切にしてほしいと思います。そこで、自分も人も大切にするために、気を付けることを二つ考えてみました。

まず一つは、人の体や心を傷つけることはしないということです。例えば、たたいたり けったり 押したりすることは、大切に守ってあげなければならない人の体を傷つけるということです。また、乱暴な言葉、あだ名、無視をしたり 悪口を言ったりすることは、心を傷つけるということです。

二つ目は、自分も人もうれしい思いになったり 元気になったりするようなことをたくさん見つけて、実行することです。どうすれば友達を元気づけたり 嬉しい気持ちにさせたりすることができるでしょうか。友達のいいところを見つけて がんばっていることを応援したりする。また、困っている友達に声をかける。など、いろいろな方法で人を元気づけることができます。

では、自分で自分を元気にすることはできないでしょうか。何かできることはあると思います。考えて実行してみてください。

最後に少し難しいことを投げかけてみました。自分で自分を元気にすること。この元気の源には、自己肯定感や自己有用感などの自尊心が大きく関わっていると思います。自分のことについて考えてみる。自分を受け入れ、自分を好きになる。そして、自分ができることを見つけて挑戦することができるようになると、自分で自分を元気にすることができるのではないかと思います。ちょうど、そんなことを考えている折、11月22日(休)の入権教育講演会で、車椅子バスケットボールの選手である北田千尋選手の話聞くことができました。



先天性股関節脱臼という病気のため、競技レベルでの健常者スポーツを断念された北田選手が、車椅子バスケットボールと出会い、車椅子に乗れば「陡れる」といふ魅力を感じ、今では、プロの選手として活躍されています。講演の途中には、競技用の車椅子に乗り、ダブルしながら走る姿も披露していただきました。まさに、その姿に、「自分で自分を元気にすること」を実践されていると感じることができました。

『世界を広げよう』という演題の講演では、車椅子バスケットボールの競技用車椅子と通常の車椅子との違い、車椅子に乗った人が運転する車の駐車スペースや身障者用のトイレの構造上のわけや工夫に触れながら、その立場に立って想像してみることで、その意味に気づき、知らなかったことを知ることができるということ、『世界を広げる』という視点でお話をいただきました。物事にはそうだった理由があり、工夫されているわけもあります。そのことを知ることによって気づきや発見、驚きがあり、これまで知らなかった世界が目の前に広がるということだと思います。

また、車椅子バスケットボールと出会い、世界で試合をするようになり、苦手だった英語が話せるようになり、多くの人と仲良くなったりすることができた、という経験から、やりたいことやできることを見つけることで、世界が広がるという可能性についてもお話していただきました。まさに元気いっぱい講演でした。

校長 内藤 信雄

